

SHIJIE DILI

GAIKUANG



世界地理概況

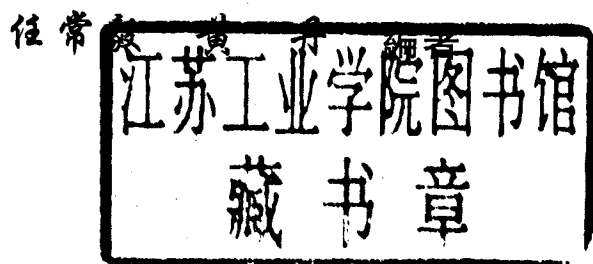
任常毅 黄丹 编著

世界 地理 概況

日语

立信会计出版社

世界地理概況



立信会计出版社

图书在版编目(CIP)数据

世界地理概况/任常毅,黄丹编著. —上海:立信会计出版社,2004. 11

ISBN 7-5429-1354-9

I. 世… II. ①任… ②黄… III. 日语-语言读物,地理 IV. H369. 4

中国版本图书馆 CIP 数据核字(2004)第 116397 号

出版发行	立信会计出版社
经 销	各地新华书店
电 话	(021)64695050×215 (021)64391885(传真) (021)64388409
地 址	上海市中山西路 2230 号
邮 编	200235
网 址	<i>www. lixinaph. com</i>
E-mail	<i>lxaph@sh163. net</i>
E-mail	<i>lxzbs@sh163. net</i> (总编室)

印 刷	立信会计常熟市印刷联营厂
开 本	850×1168 毫米 1/32
印 张	2. 875
插 页	2
字 数	64 千字
版 次	2005 年 1 月第 1 版
印 次	2005 年 1 月第 1 次
印 数	1 100
书 号	ISBN 7-5429-1354-9/K · 0001
定 价	15. 00 元

如有印订差错 请与本社联系

前 書 き

在来の世界地理というテキストは、中国語で書かれたものが多く、さらに、理論的に詳しく書かれたものが目立つである。しかし、これらのものは、三年制の学生への職業教育を主眼として、実用能力の向上を目指すテキストにあんまり相応しないと、まずこう評判できるだろう。

一方、職業教育を受けている学生数が年々増えてきて、国内で絶対軽視できない存在になっているが、これを中心とする、適当なテキストはまだできていないようである。こんな現状を気にして、まずこの世界地理概況の授業のテキストを、次の方針で書くことにした。

一、できるだけ平易な言葉で叙述を展開すること。本テキストは実際の現場での応用を主眼にして、在来の難解な叙述を避けて、実用な内容を選んで易しく書くことにした。

二、中国で改革開放政策を貫いてからの、アメリカや、カナダや、日本などの馴染みの顔と新しい顔ぶれを若干を選んで重点的に書くことにした。

三、在来の書物と区別して、知識の紹介を展開していながら、適当な伝説や逸話などを書き入れることにした。

目 次

第一課	中国	1
第二課	フィリピン	6
第三課	インド	10
第四課	韓国	15
第五課	タイ	19
第六課	ベトナム	23
第七課	日本	29
第八課	フランス	35
第九課	イタリア	40
第十課	ロシア	44
第十一課	スペイン	48
第十二課	南アフリカ	52
第十三課	エジプト	56
第十四課	ニュージーランド	60
第十五課	オーストラリア	64
第十六課	アメリカ	69
第十七課	メキシコ	73
第十八課	ブラジル	78

目 录

第一课	中国	1
第二课	菲律宾	6
第三课	印度	10
第四课	韩国	15
第五课	泰国	19
第六课	越南	23
第七课	日本	29
第八课	法国	35
第九课	意大利	40
第十课	俄罗斯	44
第十一课	西班牙	48
第十二课	南非	52
第十三课	埃及	56
第十四课	新西兰	60
第十五课	澳大利亚	64
第十六课	美国	69
第十七课	墨西哥	73
第十八课	巴西	78

第一課 中 国

世界地理概況の最後の一課として、わが国の地理概況を述べるが、知識復習の目的もあり、日本語表現技巧の掌握という狙いもある。

中国はユーラシア大陸の東部に位置し、太平洋とその縁海である渤海、黄海、東海、南海に面している。内陸への奥行きも深く、西端は世界の屋根といわれるパミール高原に接し、南西国境には、ヒマラヤ山脈が走っている。東西の奥行きは約 5 200 キロ、南北の距離はさらに長く、北端の黒竜江河畔のバツアから、南端の南沙群島の曾母暗沙まで約 5 500 キロある。総面積は、ヨーロッパ全体の面積にほぼ等しい。島の数約 5 000、最大の島は台湾島で、2 位が海南島、三位が揚子江河口の崇明島である。

中国の国旗は五星紅旗で、大きな星は人民政治協商会議及び中国共産党の象徴になり、四個の小さい星は革命的人民である労働者、農民、知識階級、愛国的資本家を表す。面積は 959 万 6 961 平方キロで、人口は約 13 億、首都は北京である。

中国の地形を大観すると、西に高く、東に低い三段の階段状をなしている。最上段は、南西部にある青海チベット高原で、面積約 220 万平方キロ、平均標高は 4 000 メートルを越える。青蔵高原の北縁をなす崑崙山脈を北に、また東縁の横断山脈を東に越え、と、地勢は急降下して、標高 1 000～2 000 メートルの第二段となる。第三段は、北から東北平原、華北平原、揚子江中、下流部の平原、東南丘陵に分かれる。地勢が西高東低なので、大部分の

河川は西から東に流れて太平洋に注ぐ。揚子江と黄河はともに青海省南西部に源を発する。揚子江の中、下流には洞庭湖、太湖などが分布する。

中国の気候は多様である。南北の気温の較差は冬は大きく、夏は小さい。年降水量は南東部の福建省、台湾省、広東省などでは1600ミリを超える。揚子江中、下流部は約1200ミリ秦嶺と淮河を結ぶ線から蘭州を経てチベットのラサに至る線から西は400ミリ以下に減少し、内モンゴル盆地と新疆の大部分は200ミリ以下、ことにタリム盆地では25ミリにも達しない。中国はモスーン気候の地域に属しているので、雨は夏の季節風によってもたらされる。雨季は華南では5月上旬から6月上旬であるが、揚子江流域では6月中旬から～7月上旬が梅雨季となり、華北から東北にかけて、7月中旬から8月下旬雨が多い。華北は華中以南に比べて雨が少ないだけでなく、雨量の年による変動が激しく、またしばしば集中豪雨の形をとるため、水害を生じ易く、雨の少ない年には、旱魃になり易い。また南東部の沿海地区では夏から秋にかけて、しばしば台風が襲来するため、風水害を生じ易い。中国北部は冬寒冷なため、河川が凍結する。結氷期間は黒竜江川には約半年であるが、黄河下流では、一ヶ月ほどである。

中国は94%の人口が漢民族であるが、残りの6%は50余りの少数民族からなる。其中で、特に多数を占めるのはチワン族で、約800万の人口を擁する。言語も民族によって異なり、各民族語が公用語とされ、それぞれ固有の民族文字を所有する。宗教は否定されておらず、信仰の自由は保障されている。ただし、風水説などの迷信については説得と科学的実証によって打破に努めている。

1975年に制定された憲法によれば、国家権力機関は全国人民

代表代会と、省、県、郷などの各級地方行政単位の人民代表代会である。人民代表は末端の郷級が普通選挙で選出するほかは、1級下の人民代表代会によって選出される。

資源分布から見れば、東北地方の鉄、石油、石炭、木材、大豆、華北地方の石炭、石油、華東地方の茶、黄麻、華中地方の鉄、林産物、西南地方の米、林産物、西北地方の綿、チベット地方の羊毛などが上げられる。

近年になって、国家政府はもっとエネルギーの開発に力を入れ、原子力発電所を作ったり、風力発電所を作ったりしている。特に黄河や長江に発電所を建設してきた。交通の面では、都市の地下鉄道交通施設の建設に力をいれている。また、全国的な高速道路網の建設にも資金を多く投入している。

観光の計画を考えると、いつもきまって食べることをそれに入れて、丁寧に計画を作るが、中国料理はまさに観光客のぜひ一度食べてみたいものになっている。中国料理は東洋を代表する最も発達した料理として世界的に高く評価されていて、日本の食生活に及ぼした影響も大きい。

中国料理は中国の広大な歴史、風土を背景とし、またそこではぐくまれた中国人の人生観と密接に結びついている。また、清の時代の康熙と乾隆の治世には再三南下巡視を行い、これによって南方の料理が都の北京に伝わり、南北の料理の交流が行われたことも特記されなければならない。中国は地域も広大で、寒暑、乾湿の差が大きく、産物の種類も変化に富んでいるため、料理の種類も多様であるが、総じて中国料理の特徴を挙げると次のようになる。

(1) 広範囲で多様な材料の利用。食品として利用する海陸の産物の範囲が広く、それぞれの食品に適した調理法が考案されている。

(2) 乾燥食品、発酵食品の発達と利用。宴席料理に使われるツバメの巣、フカのひれ、クマの足などの高級材料のほか、シイタケ、木耳など乾燥食品をもどして使う場合が非常に多い。

(3) 油の巧みな利用。中国料理は油の料理と一口にいわれるほどで、全く油を使用しない料理は少ない。代表的な調理法が炒め物や揚げ物である。

(4) 澱粉の多様な使用。中国料理では、スープにクズを引いたり、煮物の汁に濃度をつけてからめたり、揚げ物や蒸し物の仕上げにクズあんをかけることが多い。

(5) 大皿に盛り付けて卓上に提供。原則として、中国料理の盛り付けは大皿、大鉢を用い、食卓にだしてから、個人別に取り分ける。

観光者が中国での食生活を考えるとき、その料理の系統を調べてから賞味したほうがいい。中国では、各地方にそれぞれの伝統と特徴を持つ料理が発達している。それらを地方別に東西南北の系統と、宗教上の慣習に基く特殊な系統とに分けて概観すると次のようになる。

(1) 山東料理、北京料理を代表とする北方系。

(2) 上海料理、蘇州料理を代表とする東方系。

(3) 四川料理、貴州料理を代表する西方系。

(4) 広東料理、福建料理を代表する南方系。

(5) 精進料理を代表する「素菜」。

(6) 回教料理を代表する「清真菜」。

北京は長い歴史を持つ古都であるだけに名所古跡が多いので、北京旅行を代表する中国旅行は充実なものになるだろう。北京の中央部には天安門の楼門があり、その前には人民英雄記念碑がある。その周辺には、中山公園などの市民憩いの場が多い。市の北西部には金朝以来、歴代の皇帝の園林として頤和園

をはじめ、香山公園などがある。このほか、市街地からやや北方に万里の長城がある。

思考問題

一、中国の観光資源をよくまとめて、紹介しよう。

二、中華料理は世界中の人々に好まれているが、その特徴をよくまとめなさい。

三、北京や上海での観光場所を紹介しなさい。

説明：(1) 次に並べておきたいのは、以上述べた各国の地図である。(2) 近年来、各国の発展変化も大きいから、この教材の多少不備な点があるに違いない。その補完はこれから次第に行う考えである。

第二課　フィリピン

フィリピンはアジア大陸の南東部、ボルネオ、セレベス両島と中国台湾島の間に位置するフィリピン群島からなる共和国である。国名は1543年スペイン征服者ピリャロボスが当時のスペイン皇太子フェリペにちなんでこの群島をイスラス、フィリピナスと命名したことによる。スペイン、アメリカの植民地として、アジア諸国中最も長い植民地支配の歴史を持つ。カトリック教徒が多く、英語が広く用いられるなど、他のアジア諸国とは異なった様相を示す。

フィリピンの国旗は青、白、赤の三色からなっているが、その中の太陽の8本の光線は最初に独立革命を起こした8都市と自由、3個の星はこの国の3地方、青は高い政治目的、赤は勇気、白は平和をそれぞれ表す。

フィリピンの面積は30万平方キロで、人口は8088万人である。首都はマニラである。通貨はペソである。

自然について、フィリピンは7100余の島からなるが、その多くは無人の岩礁で、ルソン、ミンダナオの2島が陸地の67%、その間に散在するビサヤ諸島のうちサマル、ネグロス、レイテなど7島とパラワン、ミンドロを合わせた11島で94%占める。山脈はほぼ南北に並んでおり、山がちで広い平野はルソン、ミンダナオの中部のほかは多くない。環太平洋火山帯に沿っているため、火山が多い。最高峰はミンダナオ島南東部のアポ火山で、標高2955メートルもある。ルソン島南端のマヨン火山(2421メ

ートル)は成層火山の典型として名高い。

海陸の配置と南西及び北東季節風のため、気候型は複雑で、4～7の型を識別できる。大体に、乾季と雨季が明瞭な熱帯モンスーン型に属する地域が多い。気温は年平均約 27 度で、年較差は 4 度前後である。降水は太平洋岸とルソン山岳地方に多く、内海のビサヤ中部とミンダナオ南部は少ない。植生としては、熱帯常緑広葉樹林が広く分布し、ラワン材などの森林資源に恵まれていたが、焼き畑耕作や近年の過伐による荒廃が目立つ。

フィリピンの住民は古くから民族移動の波が押し寄せ、多様な民族構成を見せた。人種としては、紀元前 3 世紀～2 世紀から 15 世紀にかけて南から移動してきたマライ系諸族が主体で、約 90% を占め、平地部に定着している。スペイン人との混血メスチソには社会上層を占めるものが多い。

言語は国勢調査にされたものだけ、81 語あり、うち 1 万人以上が使用する言語は 44 語である。国語のピリピノ語はルソン島中部の言語である。ピリピノ語のほかに英語とスペイン語が公用語として認められているが、英語が事実上の共通語として広く用いられている。政治、行政、裁判、教育、大企業のビジネスも英語で行われているとよい。しかし、これは限られた階層の間での共通語として機能しているものであって、国民の大多数にとっては容易に理解しがたい言語であることは注意されねばならない。

フィリピンには、スペイン人による植民地化以前、統一的な政治権力がなかったが、中国との交易は 10 世紀ころから始められていた。スペインは 1571 年にマニラに要塞を築いてフィリピン征服の拠点として、以後植民地支配と住民のキリスト教化に努めた。第二次世界大戦中はフィリピンは日本軍によって占領されたが、アメリカ軍が反攻に転じた 1944 年から、第二次大戦

最大の激戦地となった。独立後のフィリピンの政治形態は1935年の憲法に基く二院制議会、三審制裁判所、行政責任をもつ大統領というアメリカ型の三権分立制をとった。スペインとアメリカの支配の下で、砂糖、ココヤシ、木材、鉱産品などの1次産品輸出に頼る典型的な植民地経済が形成され、農産加工以外には殆ど持たなかった。独立後、工業化政策が進められ、国民所得も大幅に増えた。農林漁業は就業人口の54.5%国内総生産の34.2%で、主な産業である。作り付け面積では、米、トウモロコシなど食糧作物が三分の二を占め、残りがココヤシ、砂糖黍、マニラ麻、タバコ、パイナップルなどの輸出向け商品作物となっている。

貿易では、現在も砂糖、ココヤシ油、銅精鉱、丸太、木材の四大品目の輸出が全輸出額の6割を占めているが、近年工業製品の輸出が伸び始めている。相手国としては、1960年代の末までは輸出入ともアメリカが圧倒的な地位にあったが、最近では日本の比重の高まりが著しい。

教育の視覚から見ると、フィリピンはアジアでは教育水準の高い国としてよく知られている。とくにアメリカの統治下に普通教育の普及が著しく、農村地帯の隅々に小学校が建てられた。大学は654校、学生数74万を数える。大学のうち、42校は総合大学で、うち25校は独立前の創立である。

旅行観光のところには、ミンダナオ島サンボアングのモロ族の水上部落の村落風景とルソン島南端の成層火山マヨン山の美しい稜線が上げられる。ミンダナオ島はフィリピン群島の南端に位置する島で、面積9万4750平方キロになっているが、ルソン島に次ぎ、全国土面積の約32%を占める。この島にはマギンダナオ族、イラヌン族、マラナオ族、ピラアン族、スバヌン族、マノボ族などの部族民が伝統的文化を守っている。こんな部落の伝統的な生活風景は多くの観光客の目を引く。マヨン山はフィ

リピン、ルソン島南東ピコール半島のアルバイ州にある活火山である。世界で最も完璧な円錐形をした成層火山(コニーデ)として知られる。標高2421メートルである。主として、安山岩からなる。レガスピのすぐ北、アルバイ湾に臨み、常に噴煙を絶やさぬその姿は帆船時代の航海者たちの目標とされた。国立公園に指定されて、山腹のレストハウスまで自動車道がある。周囲はココヤシとアバカ(マニラ麻)と米の産地になっている。近くのテイウイ温泉では、地熱発電も行われる。

思考問題

- 一、フィリピンの植民地歴史を簡単に述べよう。
- 二、この国の気候特徴をまとめなさい。
- 三、宗教のことはこの国ではよく重要視されているが、其の特徴を考えよう。
- 四、どうしてこの国には火山が多いか、其の原因を述べよう。

第三課 イ ン ド

インドは南アジア、インド亜大陸の主要部を占める共和国である。22の州と九つの中央直轄領に分けられ、連邦制をとる。数世紀にわたるイギリス領植民地の後、1947年8月15日にイギリス連邦の一員として、独立を達成した。国土はユーラシア大陸が、インド洋に逆三角形に突き出した半島部分と、若干の島嶼からなる。

逆三角形の国土の底辺にあたる部分で、幾つかの国々と国境を接している。西はパキスタンと、北は中国、ネパール及びブータンと、そして東はビルマ、バングラデシュと接する。また、半島部南端には、ポーク海峡を隔ててスリランカが位置する。半島南端部の西側アラビア海には、ラカジブ諸島を、そして、半島部東方約1200キロのベンガル湾上にアンダマン、ニコバル両諸島を持つ。

インドの国旗の図案とても面白く見えるだろう。三色の国旗の真ん中に車輪のようなものがあるが、その紋章はチャクラと呼ばれ、アショーカ王の車輪である。サフラン色は勇気と犠牲、白は真理と平和、緑は公正と騎士道を表す。

インドのことを話題にしたら、いつもそれと同じレベルのわが国を連想するだろう。実は、インドの面積は297万4700平方キロで、わが国の三分の一強である。人口も9億7066万ぐらいで、アジアで順番に中国に次いで2番目である。首都はニューデリーである。通貨はルピーである。

インドの国土を地形的に見ると、きわめて特色ある三つの地域に区分される。つまり：

一、大山地区

二、ヒンドスタン平原

三、半島高原部である。

(1) 大山地区は世界の屋根ヒマラヤ山脈からなり、インド亜大陸をユーラシア大陸と隔絶する壁を形作る。この壁は、西のカシミール地方から東のアッサム地方まで、約 2400 キロも延び、その幅は 240～320 キロもある。この大山地区はガンジス(現地名ガンガー)、ブラマプトラ及びインダスなどの大河川の水源であり、それはインド文化の中核部、ヒンドスタン平原の約 2.3 億の人々の生活を支える心臓部である。

(2) ヒンドスタン平原はこれら三大河川の沖積作用によって形成された世界最大級の規模を持つ沖積低地である。その沖積土の厚さは最深 6 000 メートルにも及ぶ。この平原は半島高原部を切り離す形で東西に延び、総延長は約 2 400 キロになり、その幅 240～320 キロと広大である。そして、その低平さはガンジス河口から約 1 500 キロも離れた首都ニューデリーでも、標高わずか 200 メートルほどでしかない。また、この平原部は世界では最も人口の周密な地域の一つになっている。

(3) 半島高原部は世界最古の Gondwana 陸塊からなり、その西部は火山灰土をかぶる。

インドの気候は熱帯モンスーン型で、夏季の南西季節風と冬季の北東季節風によって特色づけられる。この特色ある気候型はインド北部の上空 1 万メートル付近を、西から東に向かって流れるジェット気候によってもたらされる。ジェット気流は、地球の自転軸の変化に伴って移動するが、夏季にヒマラヤ山脈の北側を通過するようになると、南西季節風がアラビア海方面か